

令和 8 年 6 月 12 日

麻しん(はしか)患者の発生に伴う注意喚起

令和 8 年 6 月 12 日（金曜日）、医療機関から富山市保健所に麻しん疑い患者の連絡があり、富山県衛生研究所で遺伝子検査を実施したところ、麻しんであることが判明しました。今後、県内で更なる患者が発生する可能性がありますので、感染拡大防止のため、注意喚起をするものです。

【報道機関各位へお願い】

麻しんに関する注意喚起を目的とした情報提供です。

報道に際しては、患者様御本人及び御家族のプライバシーに十分な御配慮をお願い致します。

1 患者の概要

- 患者：20 歳代 男性（高岡厚生センター管内）
- 予防接種歴：2 回
- 海外渡航歴：インドネシア
- 症 状：発熱、発疹等
- 現在の状況：入院加療中
- 経緯

6 月 3 日（水曜日）	発熱
6 月 12 日（金曜日）	富山市保健所管内の医療機関を受診 富山県衛生研究所による検査の結果、麻しんと診断

- 患者及び感染源調査：調査中

2 感染の拡大防止のためのお願

- 麻しんの症状と感染力

- 麻しんの感染経路には、空気感染、飛沫感染及び接触感染があり、極めて感染力が強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ 100%発症すると言われています。

2. 10～12日の潜伏期間の後、発熱や咳・鼻水などの風邪症状や、目の充血などの症状が現れます。2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現し、4～5日高熱が続きます。その後、多くは7～10日程で回復します。
3. 肺炎や中耳炎を合併することがあり、患者1,000人に一人の割合で脳炎を発症すると言われています。
4. 症状が出現する1日前から解熱後3日程の期間は、周囲に感染させるおそれがあります。

(2) 麻しんを疑う症状があり、医療機関を受診する際の注意点

医療機関を受診する際には、あらかじめ電話で麻しんの可能性があることを伝え、医療機関の指示に従って受診してください。

受診時は、マスクを着用し、公共交通機関の利用を避けて自家用車等で受診してください。

4 予防

麻しんは感染力が強く、手洗い、マスクのみでは予防できません。

最も有効な予防法は予防接種です。

麻しんの定期予防接種（第1期：1歳児、第2期：小学校就学前の1年間）の対象となる方は、予防接種を受けましょう。

麻しんにかかったことがなく2回の予防接種を受けていない方で、流行国に渡航するような場合は、かかりつけの医師にご相談の上、接種をご検討ください。

ご不明な点やお問合せ等がありましたら、最寄りの厚生センター・支所、富山市保健所、県感染症・疾病対策課までお問合せください。

麻しんに関する情報については下記のホームページをご覧ください。

国立健康危機管理研究機構（JIHS）

<https://id-info.jihs.go.jp/infectious-diseases/measles/index.html>（外部サイトへリンク）

厚生労働省

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/measles/index.html（外部サイトへリンク）

5 <参考>麻しんの発生状況

年間患者報告数

年	H31(R1)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
富山県	4	0	0	0	0	0	0	1
全国	744	10	6	6	28	45	265	523

富山県 令和8年は速報値（6月12日時点）、全国 令和7～8年は速報値（6月3日時点）